

# 胃ろう栄養注入方法

## 開始前にしておくこと

- ① 口の中をきれいにする
- ② オムツ交換をする
- ③ ベッド頭部を30度に挙上する

- 1 ボトルに栄養剤を入れ、栄養セットの先まで栄養剤を満たす。



滴下筒を軽く押さえ  
1/3程栄養剤を満たす。



4



クレンメを  
ゆるめ、  
注入を開始する。  
(滴下の速さは指  
示されます。)

- 2 薬を注入する。※



カテーテルチップ(酢水・薬)  
栄養セットは矢印のところに  
つなぐ



5

- 栄養剤の注入が終わったら  
酢水を注入する。



- 3 栄養セットと胃ろうチューブを  
接続する。



※薬の注入は栄養剤注入後の場合があります。

### 日頃のお手入れ



ティッシュでつくった  
こよりを巻き、1日1回  
交換する



直接チューブが、皮膚  
に触れないよう外に  
出しておく

# 気管カニューレからの痰の吸引

- 1 ホースと吸引チューブをつなぎ  
吸引器の電源を入れる。



- 2 右手でピンセットをもち、  
吸引チューブをはさみ  
蒸留水で吸い上げる。



- 3 左手で吸引チューブを折り曲げ  
ながら気管カニューレに入れる。



- 4 左手を開放し、チューブをくるくる  
回転させながら、痰を吸引する。



- 5 アルコール綿でチューブの  
外側に付いた痰を拭く。



- 6 蒸留水を吸い上げ、吸引チューブ  
内の痰をきれいに吸いとり、  
消毒液の入った牛乳瓶の中に  
吸引チューブをつけておく。  
(チューブは1日1回新しいものと交換する。)



# 経鼻栄養注入方法

## 開始前にしておくこと

- ① 口の中をきれいにする
- ② オムツ交換をする
- ③ ベッド頭部を30度に挙上する

- 1 ボトルに栄養剤を入れ、栄養セットの先まで栄養剤を満たす。



滴下筒を軽く押さえ  
1/3程栄養剤を満たす。

- 4



栄養セットと  
経鼻チューブを  
つなげる

- 2



お腹に  
聴診器をあて、  
空気を送り  
“ブクッ”という  
音を確認する。

- 5



クレンメを  
ゆるめ、  
注入を開始する。  
(滴下の速さは指  
示されます。)

- 3



薬を注入する。※

※薬の注入は栄養剤注入後の場合があります。

- 6



栄養剤の注入が  
終わったら  
酢水を注入する。

# 口からの分泌物の吸引

- 1 ホースと吸引チューブをつなぎ  
吸引器の電源を入れる。



- 4 口の中にチューブを5cm程挿入  
したら左手を開放し吸引する。



- 2 水道水を吸い上げ、  
吸引チューブを湿らす。



- 5 吸引チューブ内をきれいにする  
ため水道水を吸い上げる。



- 3 左手で吸引チューブを  
折り曲げる。



- 6 吸引チューブは  
きれいに洗った  
後、吊るして乾  
燥させる。  
(1週間に1回新  
いチューブと交換  
する)

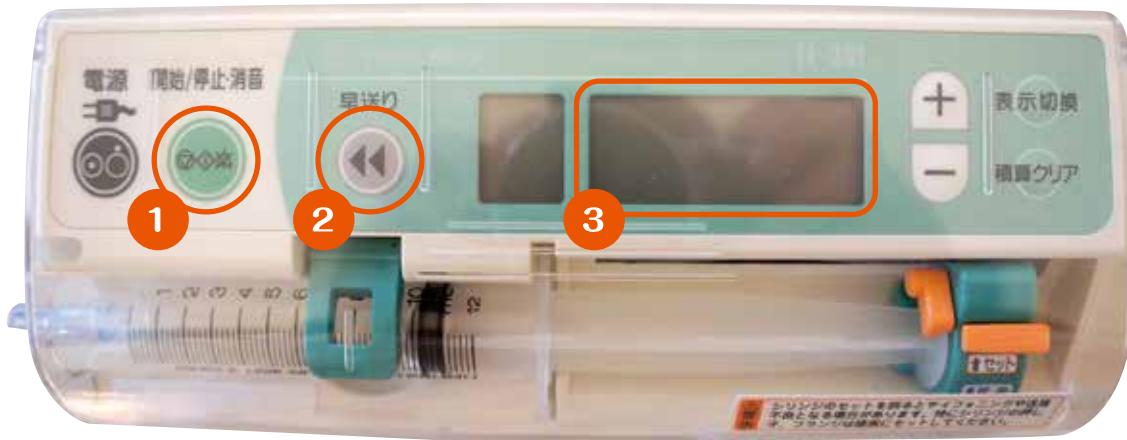
# 持続皮下注(CSI)

## アラームを消す



- 1 ① のボタンを押す。
- 2 訪問看護、診療所に連絡、アラームが鳴ったことを伝えて下さい。  
(レスキュー、早送り)

## 早送りをする



- 1 ① 停止ボタンを押す。
- 2 ② ② 早送りボタンを ③ の画面を見ながら押し続け、  
決められた量になつたら離す。  
途中で離すとリセットされるので注意!!
- 3 ① の開始ボタンを押す。

# 点滴のはずし方

1 紋創膏と消毒綿を準備する。



2



クレンメのダイヤルを矢印の方向に動かし点滴を止める。

3 固定してあるテープを少しずつはがしていく。

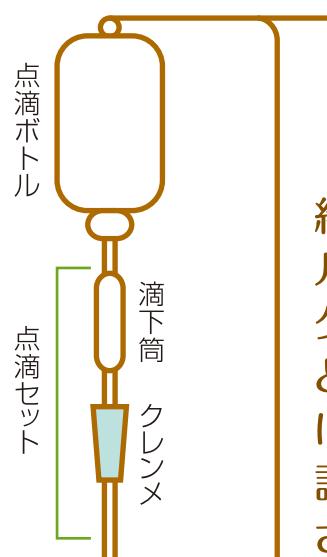


4 針の入っている部分を軽く消毒綿で押えながら、右手で矢印の方向に引き針を抜く。



5

しばらく消毒綿で、針の入っていた部分を押さえ、血が止まっていれば紋創膏を貼る。



終了した点滴ボトルや針(プラスチック)は医療廃棄物となりますので袋に入れて医師や看護師に渡してください。